

ライター千遥さま

先日はこちらこそありがとうございました。

おじいちゃんの住んでいたところに一緒に行けて私はとても良かったと思いました。何十年経ってもそこに以前と同じようにある圧倒的な存在感の山々を目にして、何だか言いようのない気持ちになりました。

また必ず一緒に行きたいですね。

明日、二人に日光 連山の写真を見せますね。



大谷川と日光連山

栃木県西部に連なる日光連山は、今市地域のどこからでもその雄大な景観を楽しむことができます。向かって左側から男体山、大真名子山、小真名子山、女峰山、赤薙山と2,000mを超える山が連なります。

その日光連山から流れる大谷川は、川幅が300m以上あり、大谷橋や並木大橋などがかかっています。これらの橋からは、大谷川の先にそびえる日光連山の絶景を見ることができます。



新学年になり、美穂も茜もクラス替えがありました。美穂と同じクラスに福島から避難されてきている男の子がいて、お兄ちゃんも茜と同じクラスだということが分かり、お母さんと親しくなりました。

第一原発と第二原発の中間地点である10キロ範囲内にお住まいで、地震のあと即日退去になり、避難所をあちこち転々とされ、さらに宮城、東京ビッグサイトを経て、行田団地の抽選があたり、こちらにいらしています。

お財布と飼っていたインコしか持ってこられず、家は水害からは逃れたものの、地震で壁が剥がれ落ちぐちゃぐちゃになってしまったそうです。お米屋さんだったそうで、もう誰も住めなくなってしまった町での営業はできなくなり職も失っての避難だそうです。

クラスの人に声をかけ、家電・衣類・日用品・調理用具・文具などの寄贈を募ったところ、車2台分の品物が集まり、今日お届けに行ってきました。この5日間でものすごくたくさんの人たちとやり取りした甲斐がありました。

喜んで頂けて本当に良かった。

船橋であった「放射線がうつる」と言った子供のいじめは、すぐ隣の学校だったようです。いわきナンバーの車に傷をつけられたり、といった大人の仕業もあるらしく、本当に恥ずかしく、情けない思いです。

茜と美穂には、「何かあったらあなたたちが守ってあげて」と話しました。幸い、学校での生活になじめそうで、ご兄弟ともに元気になっているみたいです。

やっと落ち着いたので明日あたり鎌ヶ谷に顔見にいけたらいいなあ。
また連絡しますね。

おばあちゃん、さっちゃんにもどうぞよろしくお伝えくださいませ。 真名子より